

「上越新幹線 雪に挑む」

上越新幹線、大宮と新潟を結ぶ新幹線は、日本有数の豪雪地帯を走るため、これらの雪を克服できるかが新幹線実現の最大の技術的難関となっていた。

そのため、新潟県南魚沼郡大和町（現 南魚沼市）に、将来本線として使用する高架橋上に雪対策試験場（延長1キロ）を設置。高架橋上に軌道や実物大の建物上屋を設置し、雪害対策試験を進めてきた。

今回は、豪雪という厳しい気象状況であっても新幹線列車がはじめて安全に高速走行できるように雪に挑んだ技術開発の物語。

（鉄道・運輸機構（JR TT）の前身である日本鉄道建設公団が昭和50年に制作）

「雪と戦うことが生活そのもの」である雪国。豪雪に立ち向かうために必要だった技術力とは。上越新幹線の安全運行に欠かすことのできない、当時の画期的設備を導入した消雪設備実用化への道のりをご紹介します。

新潟地方特有の大粒で湿り気が多い雪にも対応するため、スラブ軌道やバラスト軌道における様々な試験を繰り返し、問題点を検討し対策を講じるなど消雪設備を実用化した。

この消雪技術は、世界に類をみない豪雪地帯を走行する東北新幹線や北陸新幹線の建設にも採用され、降雪期における日本の新幹線の高速、安全、安定運行を支える鉄道技術となっています。





企画 日本鉄道建設公団（現名称 鉄道・運輸機構）

制作 株式会社日本映画新社（現運用会社 株式会社東宝ステラ）

<本件に関するお問合せ先>

本社 広報課 TEL 045-222-9101



ウェブサイト



YouTube
公式アカウント



Twitter
公式アカウント